音樂新聞

一部二錢（一月一回發行）
東京市外上落合四六〇
發行所　日本プロレタリア音樂家同盟内 音樂新聞編輯局
同　所
發行編輯印刷人　露木次男

發刊の言葉

今日では音樂を鑑賞し樣と思つつても、習得し樣としても、生活に餘裕があり、金が無ければどうにもならない樣な狀態である。藝術のうちでも特に音樂は高級なもの、貴族的なものに見做され、一口に『金と閑のある人の道樂』扱ひされ又は『自分達には解らない』と云はれる程になるまで大衆と離れてしまつてゐる。

それなら働いてる人間、貧乏な人間は音樂を嫌ひか、そんな事はない、どこの裏町からも口笛は聞える、ハーモニカ或は口三味線の鼻唄、流行歌、活動小屋の『音樂』に足ふみならす小僧さん達、手の屆かぬ所謂『音樂』と別に、裃はつけなくても街々に音は滿ちてゐる。

一方樂壇でも餘りにも大衆とかけ離れたゝめにあわてゝ所謂大衆音樂、工場音樂等と名のりを上げ、片手に大衆を喜ばせ、片手に反動の御役目を果しながら、大衆から搾らうといふ新手を使ひ初めてゐる。

音樂を工場へ！農村へ！の旗印の下に、常に勞働者、農民諸氏と手を握り合つて來た我が日本プロレタリア音樂家同盟はもつと廣く音樂全般に渡つて勞働者、農民の音樂に關するあらゆる欲求を滿たさうと『音樂新聞』を發行する事になつた。

だからこゝでは藤原義江の唄の唄ひ方を知りたい者も、ヴイオリンの弓の使ひ方の解らない者も、ピアノの構造を知りたい者も、プロレタリアの鬪爭歌を習ひたい者も、すべての音樂の好きな勞働者貧農が集まつて研究してゆくその爲の『音樂新聞』なのである

これまで新らしい流行歌等一人が活動かレコードで覺えて來ると次から次と覺えてしまひ、一緒にチヤン〳〵唄つてみたい樣な事はなかつたか。ハーモニカが買ひたい、マンドリンが習ひたい、蓄音機が欲しいけれど高くて買へないレコードを集めてみんなで聞きたい、そんな時には好き同志が一緒になつて『音樂新聞』に相談したらいゝ、音樂家同盟はこういふサークルの爲、又積極的にこういふサークルを作り出す爲にこの『音樂新聞』を發行したのだから、出來る丈活用する事によつて『新聞』の意義が果されてゆく譯だ。

又音樂の好きな人の中には歌に自分で節づけする人がよくあるが音樂を知らないと言ひながら時々驚く樣な傑作がある。今全世界の勞働者農民に愛好されてゐる『憎しみのるつぼ』だつてロシアの勞働者の作つたものだ。そういふ作品や、詩や唄、童謠等も一人で作つたまゝに藏つて置かないでどしどし投稿して貰ひたい。レコードの批評や、聞きたい音樂會にも行かれぬ不平、工場内の音樂團の樣子等紙面の許す限り掲載する。

音樂新聞はかく勞働者農民の自由な發表機關であると同時に勞働者農民の文化運動の時事の問題を報導し、ブルヂヨワ音樂、プロレタリア音樂作品、演奏に對する正しい批判、外國樂壇の情勢を報導する事等によつて次第に勞働者農民が本統の勞働者農民の音樂はどんなものであるかを知り、これを研究する事を目的とするものである。だから我々はどこまでも音樂好きの勞働者、農民と一所に歩まねばならない。その爲にこそ『音樂新聞』が生れたのである。

力と慰みと喜びにみちた
俺たちの音樂會
勞働者の音樂をそろへて
第三回プロレタリヤ大音樂會

來る十二月五日、六日の兩日、築地小劇場で第三回プロレタリア大音樂會が催される。主催は日本プロレタリア音樂家同盟で出演は勿論のこと、何から何までみんな同盟員が總動員でやつてゐる。

この音樂會こそほんとに勞働者諸君のための音樂會だ、第一回も第二回も諸君の壓倒的支持を得て滿員盛況だつたが今度は前よりも一層曲目を增し五日の夜七時からと、六日は晝一時半、夜七時の三回やる事になつた。曲目はほとんど新しい曲ばかりで中にはサヴエートロシアの力に充ちた素晴らしい合唱や、面白い獨唱、それから日本のプロレタリア音樂家の作曲した平常諸君の身邊の事を歌にしたもの、勞働者の子供のうた等歌ばかりではないラツパやヴヰオリンやセロでスモールオーケストラをやる、これには鬪爭歌の組曲やプロレタリア舞曲なんかがあるその外にピアノの獨奏やハーモニカの合奏があるが、中でも呼びものなのは新流行歌替うた集だ。みんな諸君おなじみの『女給小唄』『侍ニツポン』や『あらその瞬間よ』なんかを勞働者のうたになほしたのを色んな風をして出て來てうたふのだ。

どれもこれも諸君が一度きいたら忘れられない樣な奴が盛澤山にあつて勞働者は入場料二十錢だ。特に勞働者諸君のために勞働者券を作つてあるからドシ〳〵申し込んで職場の仲間をさそつて聞きに行かうぢやないか。

今度の音樂會はプロレタリア文化聯盟結成記念と樂器購入五百圓基金募集のために催されるのだが今音樂家同盟ではこの俺たちの音樂團の練習も小さなベビーオルガンの古いの一つで一生懸命にやつてゐるのだ。ピアノや素晴しいラツパが買へれば俺たちの音樂會ももつと素適なものになるに違ひない、此の次には大オーケストラが聞かれる樣にさあみんな行かう。

大衆に呼びかけ損つた
『大衆に呼びかける音樂會』

少し古い話だが國立高等音樂學院學友會の主催で『大衆に呼びかける音樂會』なるものが催されたその後で催されたその批判會に若し勞働者勤勞者諸君の聲が聞かれたら面白いと思つて出掛けて見たところがそこにはインテリばかりで勞働者の姿も女工さんの影も見られなかつた。

そこではみんな、こんなに廿錢均一と云ふ安い入場料で、こんなに偉い音樂家が出演しても大衆がワン〳〵押しよせて吳れなかつたのはどうした譯だらうと首をひねつてゐた。正に大衆に呼びかけんとして呼びかけ損つた音樂會である。主催者がブルヂョア音樂家であればさもありなん、なんと氣の毒にも主催者はぬかりの無い宣傳をしたんださうである。ロクな宣傳も出來ないでも入りきれない程な聽衆の支持を受けるプロレタリア音樂會の樣子を思ひ浮べる時、殊にその聽衆の熱と力に充ちた支持とを思ひ浮べる時、全く天地の異ひだ。結局この批判會では會場を日比谷の音樂堂にし樣とか曲目を學生自身で選ばうとか官公私の音樂學校が一緒になつてやらうとか。誠に結構であるが、見當違ひの方に向いて大衆に呼びかけ樣とした事にはお氣付きで無い樣だ。今後も催されるさうだが此の種の音樂會は矢張りブルヂョア音樂會でこゝにも大きな矛盾を暴露してゐるが今後の成行きに興味が持たれる。

通信員になるには

一、『音樂新聞』の讀者で、每月必らず通信を送る者なら誰でも通信員になれる
二、締切は每月十日まで（發行は二十日）
三、通信の送り先は─東京市外落合町上落合四六〇番地、日本プロレタリア音樂家同盟『音樂新聞編輯局』

作曲募集

最近ラヂオやレコードではおそろしく甘つたるいのや、さうで無ければナンセンスな又は戰爭鼓吹の凡そ讀者諸君とは緣の遠いものをヤツキになつて街中にひびかせてゐる。音樂新聞は讀者自身の手になる作曲を募集して變テコな音樂を蹴つとばしたいと思ふ。

最初は童謠だ。左記の童謠を任意に作曲して編輯局宛にワン〳〵送つて吳れ。締切りは十二月二十五日だ。入選作は次號に發表する

ナニヲヤロ　川崎大治作

ヂヌシノハゲサン
ナニヲヤロ
ツクシヲツンダラ
ハカマヤロ
タケノコムイタラ
カワヲヤロ
トウキビモイダラ
ヒゲヲヤロ
クリノミヒロタラ
トゲヲヤロ
ナンニモナイトキヤ
ゲンコヤロ

樂壇のスターになるには──每日茶碗蒸しとか何とかと上味いものを喰つて、敎師には月々三四十圓の月謝を拂つてイザ音樂會と云ふ時にはウント金をバラ撒くのさ。

○

大家連の會話をそのまゝ

『一體君、音樂家は恩を知らないね、折角樂壇に出してやればもうそれ切りさ』

『だから君、ベタ〳〵スタムプを捺し給へよ』斯くして現はれ出ました樂壇のスター。

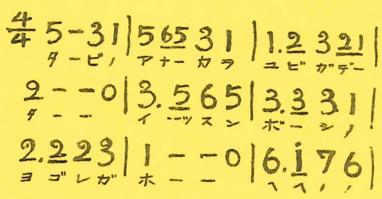
○

反動、キングレコード一向振はず、目下吹込中止の態。獨りP・Mレコードだけが繁昌々々。

一寸法師

戸部香作曲

靜かに物語る樣に



作詩　槇本楠郎

足袋の穴から
ゆびが出た
一寸法師の
よごれ顏
へへののもへのと
書いてやれ

音樂サークルの話

諸君！此の音樂新聞は讀者諸君と堅く手を握つて音樂サークル（音樂の集り）をチヤン〳〵作つて行度いと思ひます。

特に少年、青年、婦人勞働者諸君の澤山居る職場には是非作り度いと思ひます、若い人達は音樂が誰でも好きで音樂を聞くと頭が痛くなる樣な老人と違ふから非常にこう言つた集まりを作り易いのぢあないでせうか。

『音樂サークル』つて一體どう云ふんだ？

勿論承知の人もあるでせうが判り易く一口に云ひますと『音樂をやる人音樂の好きな人の集まり』なんです

例へば、ハーモニワバンドとか流行歌、歌はう會とかマンドリン、バアイオリンを彈く人達が一諸になつて何々會つて言ふ風に音樂の好きな人達が集まるのが音樂サークルなんです。

『そんなの　なら俺達　の處にあらあ』異議なしです、ハーモニカバンド、なんか澤山あると思ひますが不幸にして今迄は何處にどう云ふハーモニカバンドがあるか一寸も知る事が出來なかつたのです、亦初めてハーモニカバンドを作り度いと思つてゐた兄弟達もどうしたら巧い工合に作れるか判らないで作れないで居る處もあると思ひます、そこで此の『音樂新聞』がお互の連絡の役目を果すでせう。

その爲めに此の新聞は職場の兄弟達がお互ひに百パーセントに利用してくれる事を希望して居り、その爲めに生れたんです。

話が大分ソレましたが、サテ職場内で音樂サークルを作るのにはどう云ふ風にしたら良い？、箇條書にして見ませう。

一、職場内の音樂愛好者は誰人でもはいれます。ヴアイオリンを彈く人でもハーモニカ、流行歌の好きな人達でもプロ音樂でも尺八等の日本音樂の愛好者でも所謂音樂好きの大衆的な集まりであります。
二、會の世話役（幹事）を皆で選出します。
三、會則とか會費等も皆の意見を充分尊重して作る。
四、音樂愛好者だけでは集まり得ない時は文學愛好者或ひは演劇（芝居）好きな人達と共同して『音樂、文學、演劇』を含めたサークルを作りだん〳〵に一つ〳〵を獨立させる樣にすればいゝのです。
五、一職場内だけで作り得ない時は近所の工場の諸君の音樂好きと共同でやれば好いのです。

以上で大體サークルの（集まり）の性質や方法を述べたのですが、初めにも言つた樣に若い人達の居る職場なら屹度二三人は音樂に趣味を持つて居る人がゐると思ひます、その人達が中心になつて職場内の諸君の文化的要求（音樂、文學或ひは芝居）と結び付けて、今度一つ音樂の集まり（ハーモニカバンド或は合唱團ヴアイオリン合奏）を作らうぢやあないか、と仲間に相談し、出來た音樂好者の集まりが音樂サークルです（例へば會社のいろんな慰安會に出演してハーモニカを聞かせたり、亦ピクニツクの時とかいろんな機會かあります。）

そしてハーモニカの先生、ヴアイオリンの先生とか或ひは樂譜の要求があつた場合音樂新聞はその相談相手になり度いと思ひます。

サークルを大きくするためには『音樂新聞』はその手助けをするものとして非常に大事な新聞です、併しそのためには此の新聞は誰にも喜ばれ愛されるものでなければなりません、それには職場内の音樂愛好者諸君がチヤン〳〵通信を送る事が是非必要です

サークルに就いてはまだ澤山色色の話があると思ふのですがそれは今後讀者諸君と一諸に考へることにして簡單ではありますが、サークルの性質と意義に就いて言たつもりです、第二號の音樂新聞には是非諸君のサークルに就いての意見なり報告なりを投書してくれる事を希望します。

第三回プロレタリア
大音樂會
12月5日ヨル7時
6日ヒル1時半ヨル7時
於築地小劇場
勞働者　20錢（團體15錢）
一般　50錢
主催日本プロレタリア音樂家同盟

ハーモニカ
手引きのつゞき
─（一面よりつゞく）─

これで音色、音量、等が解つたから、第二に構造の良否を調べなければいけません。先づ木部と地金との接ぎ目。地金とカバーとの接ぎ目の具合を調べて見て、隙間が少しでもあつては駄目です。この隙間があると吹いた時に息もれがしますから充分調べて見なければいけません。ハーモニカ全體がそつてゐるのなんか勿論不合格ですそれに木部の加工や塗り具合を見て、第三の形狀の撰定です。形では吹口が薄目に出來てゐるものでカバーに凹凸の少ない平らかなものが良いでせう。

これで大體買方の心得が終つたのですが、尙二三注意を附け加へませう。ハーモニカはすべてC調とかA調とか調子が定まつてゐます（その印は地金の片隅に刻つてあります）色々の調子が揃へられることは望ましいのですが、無理にさうしなくても一個で充分間に合ひます。それにはC調が無難で良いでせう殊にゆく〳〵はバンドでも作らうと云ふ人たちは皆そろつてC調で始めた方が後で都合が好いでせう。又樂器屋へ行つて見ると、何十種となく色々會社で作られたいろんな名前のハーモニカが並べられてありますが、結局前に述べた貴方の選定法に合つてさへゐればどれでも好いと思ひます、値段も一圓から一圓五十錢の間なら上等です

山田耕作氏の ロシア音樂 みやげ話

山田耕作氏が最近ロシアから歸朝した、記者は荏原町の新交響樂團の練習所に氏を訪ねた、山田氏け練習を了へるや否や汗も拭はずに東京にとんで歸つて、次の仕事にかゝらねばならない、なか〳〵忙しい、歸りの道々、氏は快活に左の樣に語つた

なか〳〵愉快な旅でした。はじめ一寸十日間位と思つてゐた所がどうしても方々巡つて勞働者達に好いオーケストラを聞かせてくれとのソヴエート政府の要求で、とう〳〵五十日間も滯在しました。勞働者を教育する爲にソヴエート政府のやつてゐる色々の事業は、何から何まで注意と親切の行屆いてないものはないのですが、何しろ私は自分が音樂家だものですから、音樂の事には特に感心して來ました。

各地の勞働組合には、勞働者の慰安のためのクラブ見た樣なものがあるのですが、そこにはピアノ、ヴヰオリン、ラッパその他各種の樂器が供へつけてあり、すぐれた音樂の教師がついてゐます。教師は音樂のことは何も知らない勞働者にも親切叮嚀に手ほどきからやつてくれるので、音樂の好きな勞働者は思ふ存分練習する事が出來るのです。何しろ一日の勞働時間は七時間で、その上四日働けば一日休みが來る、丁度一週間が七日でなくて五日になるわけで、音樂の練習にしろ、いろ〳〵な勉強にしろ、時間がゆつくりあるから思ひ切りやれるわけです。かうして音樂が上手になつた勞働者は、組合でやつてゐる合唱團やオーケストラやブラス、バンド（吹奏樂團ラッパや太鼓ばかりのオーケストラの樣なもの）にはいる事が出來ます。これらの團體はまた專門の親切な指導者に依つて愉快な規則正しい練習をやつてゐます。少しの時間をぬすんで先生も無しで練習したのとはちがひ、立派に何も彼もそろつた設備で、しかも若い勞働者が生々と愉快に練習してやつてゐるオーケストラや合唱團の事だから、實にうまいものです。まるで素人ばなれのしたもので、日本の學生のオーケストラなど足もとにも及びはしません。之等の吹奏樂團やオーケストラは日曜日毎に町の公園に出て、公衆の面前でその上手な演奏を聞かせてゐます。方々の組合からみんな出て來ますから、まるで競爭の樣な形です。この公園と言ふのは例の五ヶ年計畫の一部分としてやつてゐる事業で、各都會には方々に立派な公園を作り、之を五ヶ年計畫文化公園、別の名を『慰安と休息の園』と呼んで居ります。

八月一日は例の戰爭反對の國際的の記念日で、ロシア各都市では實に大規模な示威行進があります。この頃私は丁度バクーと云ふ都會に居ました。この街はロシアでもずつと南の方にあり、夏は日中は百四十度にも登ります。私はホテルの部屋に居て、暑くてたまらぬのでほんとの素裸になつて寢つ轉がつて居たのですが、餘り景氣の好い響きが方々から起るので、つい着物をひつかけて窓から外をのぞいて見ました。所がどうでせう無數の行列が公園めがけて集まつて來る。樂隊を先頭にたて、スローガンを大書した旗や組合旗をなびかせて、あちらからもこちらからも續々と集まつて來るのです。餘りの壯觀に私は我を忘れて歡呼しました。

この日の催しと關係のある事で面白い出來事がありました。その日の前日の事、私の音樂會があつたのですが、その休息時間に私が休息室で休んでゐると何か外が騷々しいので、ちよいと覗いて見ると、廿一、二の青年——例の赤衞軍の帽子を頭にのつけた可愛い若者が頻りに演說をやつてゐるのです。私には全然意味は判りませんが、人に聞いて見るとこの若者は政府から派遣された役人で、その翌日即ち八月一日のための宣傳演說なのです。その演說のやり方がまた素敵にうまいもので、私など判らない乍らに思はず微笑せずに居られませんでした。演說のあい間あい間にちよつとした質問を出し、實に巧妙に聽衆の間から答辯を引き出すのです。その答辯が相當値打ちのあるものだつた場合には、ちよつとした賞品を與へる、それはほんのちよつとしたもので値段にしたら何でもないものですが、それでも貰つた人が喜びさうなものが撰んであるのです。

『どうです、この質問に答へて呉れる同志はありませんか？ふむ、あなた、あなた、あなたはきつと判つてるに違ひない、どうです？』

そこで五十歳か六十歳位のシヨボ〳〵眼のすごいおぢいさんが立ち上つて要領の悪い答へをする、さうすると

『さうだ、その通り！あなたは舊時代の人に似合はず正しい物の見方の出來る人だ。さあ、どれでもお好きな賞品をお取りなさい』

おぢいさんはニコ〳〵しながら小さなノートを貰つて、全聽衆の歡呼の中に自分の席席にもどる、そこで再び若者の演說が續けられると云つた具合です。實に美しい光景で、見てゐる方でも全く愉快になります。濟んだ後ではちやんと私の所へ來て

『お蔭で休みの時間を有効に使はしていただいて有難う』と云ふ意味の事をのべ、實に明るく愉快な態度で歸つて行きました。

この一事でも判ることですが、役人達が民衆を指導する態度は全く親切丁寧を極め、大きな事情と忍耐を以つてやつて居ります。

それから各地の音樂學校には『ラブファック』と云ふ科がおいてあります。之は前に云つた樣な、組合での音樂教育に依つて音樂に興味を持つた勞働者を試驗の上入學させ、本當の音樂教育を施すまでに或期間豫備教育を與へる所なんです。この期間は工場で勞働者として働き乍ら一週に二日——一週と云つても五日制の一週ですが——二日だけ學校に來て教育を受けるのです。この期間を濟まし、この人は見込があると云ふ事に決まれば、そこで愈々本當の音樂學校の生徒として入學し、將來組合所屬の音樂家となるために勉強するわけです。その勞働者は學生の間は組合から毎月四十ルーブリー約四十圓の支給を受けます。諸君は若しかすると、どうせ勞働者上りの學生だから大してうまくはないだらう、また勉強してからだつて大してうまくはないだらう、と考へるかも知れない。さきに云つた、ラブファックの試驗をうけに來る勞働者、即ち組合のクラブで音樂をやつただけの勞働者が、一體どれ位の技術を持つてゐるかと云ふ事を示す好い例があります。あるすぐれた音樂家がこのラブファックの試驗官に選ばれた。その人は、勞働者に音樂を教へた所で大してうまい人も出來ない、そんな努力は無駄な事だと思つて、こんな制度に反對の意見を持つてゐたのです。所が愈々試驗をやつて見ると一人の十九才位の勞働者がモーツアルトと云ふ昔の人の作つたコンチエルトと云ふむつかしい曲を苦もなくやつてのけたのです試驗官はすつかり驚いて、組合の勞働者の間でもこんなには音樂が行き渡つてゐるなら、ラブファックの制度をこしらへるのは全く好い事だ、と氣が付き、その後は熱心な贊成者となつたのです。

最後に是非云つて置きたい事があるのです。それは、前に云つた組合のクラブで教師が教へてくれる音樂でも、或は組合の合唱團やオーケストラのやる音樂でも、決して通俗曲ばかりをやらない。むつかしい曲をどん〳〵やるのです之までブルジョア達は、これは俺達だけが判る音樂で勞働者なんかにわかりつこなしだ、勞働者などは民謠や流行歌でもやつてりや好いんだときめてゐた。勞働者の方でも、どうせ音樂なんてものはブルヂョアの閑人のやる事だ、俺達とは緣が無いんだ、ときめてゐた所が今はさうぢやない。俺達だつてカッポレや東京行進曲ばかりをやつて、それで滿足してゐて好いわけぢやない。ブルヂョアのやつたものなら俺達だつてやらうぢやないか。面白いかどうかは別問題だ、とにかく一應やつて見て、面白い所は殘して行き、面白くない所はドシ〳〵塵溜へ捨てちまや好いんだ、と云ふわけです。政府の方でも、ブルヂョアの殘した優れた技術は偏見なしに勞働者に與へなくてはいけない、それが勞働者の間にジックリと滲み透つて行き勞働者が之をこなして行くと同時に、勞働者は自分自身の音樂、プロレタリア音樂を、自分達の手で作り上げて行くに違ひない、と云ふ譯です。私は之は立派な事だと思ひます。政府も勞働者もこの覺悟で進んで行けば、今までかけ聲ばかりで本物の見られなかつたプロレタリア音樂はキット近いうちに生れるだらうと思はれます。

職場から

城北・一鐵工

俺達の職場は建鐵と同一オヤヂによつて經營され、百三十名の兄弟が働いてる、今迄鬪爭經驗はあるがストが勞働階級の獅子身蟲の惡蟲、解黨派のサク動並に札付きダラ幹共社民の裏切りの爲め慘敗せしめられてから、俺達の組合は徹底的に彼奴等資本家のために蹂躙され强制的に正義團一派に乘ぜられ、現在正義團に八十人加盟してゐるが、絶對に首にしないと言つたに係はらず、あらかじめ目をつけておいた兄弟は勿論彼奴等のために忠誠の誓ひを結んだ正義團員もどん〳〵首にしてゐる、彼奴等に僞されて正義團に入つてゐた兄弟も正義團が少しもほんとに自分達の爲めのものでないと云ふ事に目覺め職場内に不平不滿が高まつてる、かうした職場内狀勢にあつて、多かれ少かれ文化的要求をもつた兄弟によつてとり上げられた、文化サークルの任務も意義をもつたものであつて俺達はこの職場内狀勢に具體的に的應した對策を愼重に立てるべきであつたが實際には俺達は機械的にしかとり上げ得なかつた、結局俺達のサークルの獨自的發展のハッキリした見透しの誤りを暴露したものである然し今では文化サークルを大衆的な獨自的發展方向へと導くハッキリした對策に立て直し、モリ〳〵大衆の中へ大衆的文化サークル結成の爲めに鬪つてる事を報告しておき度い。

多かれ、少かれ大衆のさうした要求を充分發展せしめ得なかつた事は大きな失敗である、併し俺達はこの良い失敗の經驗から教訓をくみ取り正しい方向を目指して進む事を決議した。未だ澤山言ひ度い事はあるが、又レポする。

誰にも出來る クチブエ

『口笛で吹くマーチ』と聞いただけで、秋晴れのやうな輕快さを覺える。

あの音色が嫌ひだ、口の形が氣に入らぬ、などゝ云ふ人は兎に角、少しでも吹ける人、亦吹いて見たい人は、讀んで見てほしい。

凡そ、俺達の手に入れ得る、最も安價な樂器と云へば、先づハーモニカ、それさへも一圓はする、所が口笛は只だ、おまけに同じ只の樂器でも、喉と違つて音質の差等が殆どない、男でも女でも大方同じやうな音色だ。だから、同聲二部三部の合唱曲なら、その儘使へる。然も人數は、二人以上何人でも可なりだ更に、音域が廣い。二オクターブ以上出すのは、譯なしだ、試みに口をスボめて、一吹きして見給へ、自分でも驚く程の高低音が出せるから。で、音さへ出せれば、占めた物だ。

自分の知る限りの曲は吹ける口をスボめて、齒と齒の間の一吹き！

二三日の練習で驚く程上達するそしたら一友人を見附け給へ。二人でも三人でも、口笛合奏の美しさは君を有頂天にさせるだら一〇一歌曲集、ベストポピユーラーホームソング、プロレタリア歌曲集其他練習曲には不自由しない。トレモロ、倚音、碎音、アルペヂオ等々の技術だつて譯はない年齡、男女、職業そんな物での差等は一寸もない、秋空の下、高らかに吹き給へ！

『口笛の集ひ』いつでも、どこでも、相手さへあれば、すぐ出來る勿論筆者は、時間のある限りのお力添をお約束する『口笛の吹き方』と云つた風の物も、お望みなら、何れ亦、後日をお約束しよう。

ハーモニカの 手引き

一、まへがき

諸君はハーモニカと云ふ樂器を知つてゐるでせう。ハーモニカだけは日本が世界第一なんださうです、全く何處へ行つても都會は勿論のことどんな農村へ行つても、一人や二人のハーモニカ吹きがきつとゐて、夕方などになると彼方からも此方からもすハーモニカの音が聞えて來ます。誰にでも——勞働者にでも小僧さんにでも、給仕や店員や學生にでも——一番愛好されてゐます。一日の仕事が終つた時などは、あつちの窓から、此方の軒先で、さうかと思ふと自轉車を走らせながらジャン〳〵吹き鳴らされてゐます。實際ハーモニカ程多勢の人に親まれてゐる樂器はありません。

ハーモニカは第一に値段がとても安い、他の樂器に比べたらとてもお話にならない程安い。それでゐて輕やかな愉快な朗かな音色を持つてゐる、あのスラッとした恰好の小さな樂器からどうしてあんな好い音が出るかと不思議に思ふ位です。けれども形が小さいので手輕に一寸ポケットやフトコロにおさめて何處へでも持ち歩きが自由です、だから自轉車を走らせながらでも道を歩きながらでも吹く事が出來ます。吹き方だつて易しくて一寸練習すれば誰にで直ぐ吹ける樣になるし、こんな簡單で便利な樂器だから皆に喜ばれるのは當前でせう。

それでハーモニカをこれから習ひ始めやうとする人、もう一人で習ひ始めてゐる人たちの爲に、ハーモニカに就いて知つて置かなければならない色々の事——ハーモニカの買ひ方、種類と名前、吹き方、略譜の讀み方、ベースの入れ方、その他の特別な吹奏法、ハーモニカの保存及手入法、等——を順に書いて行きます。

二、ハーモニカの買ひ方種類と名前

合奏用以外に普通一般に使はれてゐるハーモニカの種類は大體次の樣なものです。

1、單音ハーモニカ、各穴に辨が一枚あつて、吹吸に依つて一つの異つた音が出ます

2、複音ハーモニカ、吹口が上下二段になつてゐて各穴に一枚づつの辨がある、つまり上下で同音が二枚ある譯です、その各穴は吹吸のどつちかで鳴るだけです。

3、オクターブハーモニカ、複音ハーモニカとほとんど同じですが、異つた點は下段の穴の音が上段の音より一オクターブ（八音）低くなつてゐて、吹吸のどつちかに依つて一オクターブ（八音）づゝ異つた音が出ます。

4、重音ハーモニカ、之もオクターブハーモニカとよく似てゐますが、各穴に辨が四枚あつて單音ハーモニカの樣に同一ヶ所に吹吸に依つて異つた音が出ます。

その他にバネ仕掛けで半音の出る樣になつたクロマチックハーモニカとかダブルハーモニカとかがありますが、それらは皆特殊なものので、普通一般には二十穴以上の複音ハーモニカを使ひます。

さて初めての人でもハーモニカの大體の形は知つてゐるでせうが一通り主要部分の名前を知つて置いて下さい。先づニッケル鍍金のしてあるカバー（金屬板）が被せてあつて、その下に眞鍮板の地金があります。その地金の短冊形に穿かれてゐる穴に大事な辨（リード）が定着されてゐます。その又下に地金にはさまれて櫛目の木部（ウッド）があります。これで種類と名前の大略の說明を終つたので、愈々店頭に立つた時の買ひ方の話をしませう。

一番好いのは誰かハーモニカの吹ける人に選んでもらつて買ふ方法です。これなら安全ですが、さう云ふ人もなく單獨で店頭に立つて買ふ場合に、是非心得てゐなければならない事は

第一に、ハーモニカを手に取つて吹いて見て、各音の震動（トレモロ）が出て、廣大な音量が輕く平均してゐればそのハーモニカは先づ合格です。吹いて見て音が重く貧弱で、息苦しかつたり、音の震動にムラのあるのは落第です。

（一面下段へつゞく）

樂器購入五百圓基金募集

勞働者（男でも女でも）に音樂を教へます。
歌、ヴイオリン、マンドリン、ピアノ、キター、ハーモニカ等。
五人組、十人組は好都合です。
ピアノ、ラッパ、太鼓を買ふために一錢でも二錢でも送つて下さい。
P、Mレコード第一號（メーデー歌、ラ、行進曲）八十錢、送料二十錢
プロレタリア歌曲集　三〇錢、送料二錢
勞働者の集會、ピクニックにでの音樂演奏の依頼には直ぐとんで行きます

東京市外上落合四六〇
日本プロレタリア音樂家同盟